

1 学校全体での取組

		児童に関わること	保護者に関わること	
① いじめの未然防止に関すること		<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう集団づくり」と「子供が意欲的に取り組む授業づくり」に心掛け、学業指導を推進する。 ○世の中には、いろいろな考えをもっている人がいることを理解させる。(道徳科・特活・総合) ○学活の時間を活用してインターネットや SNS の危険性やモラルについて指導する。 ○「人権教育プログラム」の活用や道徳科において人権教育や道徳教育の充実を図る。 ○「スマイル会議」「あいうえお運動」「ありがとう週間」「やりとぼう」において、思いやりあふれる学校づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人それぞれの良さを見つけながら生活することの大切さを伝える。 ○携帯電話やインターネット・SNS を使うルールづくりを行う。 ○友達の気持ちを踏みにじったり傷つけたりすることの重大さを日頃から子供に伝える。 ○地域での様々な体験を通して、集団の一員としての自覚や自信を育ませる。 	
② いじめの早期発見に関すること		<ul style="list-style-type: none"> ○児童が集団から離れて一人で行動しているときは、声を掛けて話を聞く。 ○上履き・机・椅子・学用品・掲示にいたずらがあつたらすぐに対応し、原因を明らかにする。 ○教育相談やアンケート、休み時間や給食の時間を有効に活用し、児童から情報を収集する。 ○相談ポスト(にしっこ相談ポスト)の活用や養護教諭・SC 等による相談窓口を周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○子供との会話をできるだけ多くする。 ○服装などの汚れや乱れに気を配る。 ○子供の持ち物に気を配り、なくなったり増えたりしていないかどうか観察する。 ○悩みは何でも親(家族)に相談できるような雰囲気や、普段から作っておく。 	
③ いじめの早期発見に関すること	1 暴力を伴ういじめの場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○本人や周辺からの聞き取りし、身体的・精神的な被害を的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校の際教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○養護教諭・SC 等と連携をとる 	<ul style="list-style-type: none"> ○我が子を守りぬく姿勢で、子供の話に耳を傾け、事実や心情を聴く。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針を知り、協力し合う。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○SC、こども家庭課、児童相談所、警察等、関係機関と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめられた子供を守ることを第一に考えた対応を学校がとることを知る。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聴くようにする。 ○被害児童、保護者に対して、適切な対応をする。
	2 暴力を伴わないいじめの場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○本人や周辺からの聞き取りをし、精神的な被害を的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○休み時間や登下校も教師による見回りを行い、被害が継続しない体制を整える。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○養護教諭・SC 等と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○我が子を守りぬく姿勢で、子供の話に耳を傾け、事実や心情を聴く。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針を知り、協力し合う。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○養護教諭・SC 等と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめられた子供を守ることを第一に考えた対応を学校がとることを知る。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聴くようにする。 ○被害児童、保護者に対して、適切な対応をする。
	3 行が見えにくいいじめの場合	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○つらく苦しい気持ちに共感し、「いじめから全力で守ること」を約束する。 ○本人や周辺からの聞き取りを重視し、精神的なダメージについての的確に把握し、迅速に初期対応をする。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○養護教諭・SC 等と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○我が子を守りぬく姿勢で、子供の話に耳を傾け、事実や心情を聴く。 ○いじめの問題解決に向けた学校の方針を知り、協力し合う。
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で事実を確認し、いじめをやめさせる。 ○いじめの理由や背景をつきとめ、根本的な解決を図る。 ○養護教諭・SC 等と連携をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめられた子供を守ることを第一に考えた対応を学校がとることを知る。 ○事実を冷静に確認し、わが子の言い分を十分に聴くようにする。

	直接関係のない者	<ul style="list-style-type: none"> ○傍観することはいじめに荷担することと同じであることを考えさせ、いじめられた児童の苦しみを理解させる。 ○友達の言いなりにならず、自らの意志で行動することの大切さに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめに気付いたとき、傍観者とならず、助ける側の態度をとることができるような子供に育てる。 ○いじめに対する学校側の考え方を理解し、どんな場合でもいじめの側や傍観者になってはならないという気持ちを育てる。
--	----------	---	--

2 家庭・地域との連携

①家庭での取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の子供に関心を持ち、子供のさびしさやストレスに気付くことのできる親になれるよう啓発する。 ○「だめなことはだめと、叱ることのできる親に!」、「努力したときはほめることのできる親に!」を意識させる。 ○母親はもちろん、父親の存在が大きく影響することを伝え、父親も子育てに積極的に参加するよう啓発する。 ○携帯電話やインターネット・SNS を使うルールを、本人と保護者とで話し合っ決めて促す。
②地域での取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○子供たちを「地域の宝」として育てる意識を持ち、子供たちに地域から見守られているという安心感をもたせるようにする。 ○子供たちとますます顔見知りになるために、子供たちに出会ったときには、あいさつや声かけを頼む。 ○公園や遊び場などで、困っている場面を見かけたら積極的に声かけをしてもらう